

③ 泉保健所
における
機能訓練教室運営評価会議の変遷
衛生局研
究発表会

前田喜代子 杉山直美

一 はじめに

昭和五十八年二月に施行された老人保健法により、保健所では①健康手帳の交付、②健康教育、③健康相談、④健康診査、⑤機能訓練、⑥訪問指導が実施されています。

これら事業の中の一つ機能訓練は、脳卒中などで心身の機能が低下している人で、医療終了後も継続して機能訓練の必要な人に対し、参加者間の交流を通して生活圏の拡大を図ることに重点を置き、加えて心身機能の維持増進を図るための軽易な訓練を行い、日常生活の自立を助けることを目的として『保健所機能訓練教室』を実施してきました。

泉保健所では老人保健法施行と同時に同教室を実施してきましたが、昭和六十二年度末「所内機能訓練教室」（以後「所内リハ」）の卒業生を選定するため、事例検討会議を開催しました。その後、毎年所内リハの卒業生を送り出し

「事例検討会議」の内容・メンバーを充実し、昭和六十三年度末に会議の名称を「機能訓練教室運営評価会議」と改めました。今後、この会議をより充実したものにするため、これまでの経過をまとめました。

二 経過

老人保健法施行により始まった機能訓練教室^註は、当保健所でも昭和六十一年度まで参加者が希望すれば継続参加できる形態をとっていました。

しかし、昭和六十一年春頃より二〜三年継続参加しているメンバーの中から、実施回数が増加、プログラム内容の高度化の要望が始めました。

当保健所としては、実施回数を二〜三回程度増やすことしか要望にこたえられず、また、所内リハを二〜三年経験した対象者のレベルにあ

一 はじめに
二 経過
三 考察
四 まとめ

わせたプログラムでは、入会したばかりの参加者に挫折感を与えかねないため、担当者としては危惧を感じていました。

そして検討の結果、「所内リハ」のプログラム内容では物足りないと感じていたメンバーがサークル活動を始めていたので、このメンバーを中心に所内リハに継続参加していた対象者の中から、精神的・機能的にレベルの高い参加者を卒業、OB会を結成する方向へと働きかけました。

昭和六十二年三月、十八人が卒業。六十二年四月卒業生全員でOB会を設立（以後「泉睦会」）、活動を開始するとともに、所外リハに加えて新たに地区における機能訓練教室（以後「所内リハ」）を開始しました（表）。

所外リハは、所内リハ来所不可能な人を主に対象としていましたが、さらに機能訓練の回数を増やすため、所内リハ参加者及び所内リハ卒業生も参加できることとしました（図）。

所外リハと泉陸会の活動が軌道に乗ることに
より、所内リハ参加者の卒業方式に見通しがつ
いたため、昭和六十二年度末に卒業生を選定す
る事例検討会を開催しました。

そこで、昭和六十三年度末には、事例検討会
議を充実させ、機能訓練教室運営評価会議とし
ました（表参照）。

平成元年度から二年度にかけて機能訓練教室
運営評価会議のメンバーに外部講師、福祉援護
係、泉陸会、保健所事務職を加えました（図参
照）。

さらに、平成三年度は年二回の機能訓練連絡
会が予算化されたので、当保健所としては機能
訓練連絡会と機能訓練教室運営評価会議を各々
一回開催する予定です。

三——考察

機能訓練教室運営評価会議を定例化してきた
効果

- (1) スタッフによる情報交換、交流の場になる。
- (2) 参加者一人一人の経過をまとめ評価し合う
ことにより、スタッフが教室参加者の一年間
の変化を共有し、各々のプログラムのうちの
参加者の動きも知ることができる。

- (3) 地域整形外科医がメンバーに加わることに
より、地域の医師へ管内の実情を提供できる。
- (4) 運営に関与するスタッフが一同に集まり討
議することにより、全員が共通の理解で教室
運営ができる。
- (5) 年度末に行うことにより、一年間の参加者
の変化・今後の対応等、状況の整理ができ、
次年度への移行がスムーズとなる。
- (6) 機能訓練教室運営評価会議を行い、評価す
ることにより、各地区保健婦が自己の受け持
ち患者として参加者を再認識できる。

四——まとめ

昭和六十一年度より五回の卒業生を送りだし
てきたが、卒業に当たり対象者は様々な反応を
示してきました。

その間、所内リハ参加者の所外リハへの平行
参加及び泉陸会との交流回数増加、評価会議
後の地区担当保健婦による卒業に対しての意志
確認をあらかじめ行うなど、卒業への不安の解
消に努めてきたため、現在では比較的スムーズ
に卒業を受け入れています。

このようにして所内リハに卒業方式を取り入
れたことにより、機能訓練教室運営評価会議の

必要性も高くなり、内容もメンバーも充実して
きました。評価会議が体系化されるに従い、卒
業生に対する保健所としてのフォロー体制の見
直しも検討され、今年度は専門医を受診してい
ない全卒業生に対し、地域整形外科医による機
能チェックを計画しています。

さらに平成三年度より年二回の機能訓練連絡
会が予算化されたが、現在では専門職の雇用ま
では予算化されていないため、今後これらの意
見が反映されるような予算措置を望みたい。

最後に運営評価会議に快く御出席くださった地
域整形外科医を始めとし、各種外部講師、介護
ボランティア及び泉陸会に厚くお礼を申し上げ
ます。

△前田＝衛生局泉保健所保健課指導係／杉山＝
同課関係▽

△注▽機能訓練教室

心身の機能が低下している者であって、医療終
了後も継続して機能訓練の必要な者に対し、参
加者の交流を通して生活圏の拡大をはかること
に重点をおき、加えて心身機能の推進をはかる
ための軽易な訓練を行い、日常生活の自立を助
けることを目的とした教室